



## 利用者の皆様へ

来園する際には新型コロナウイルス感染症対策をお願いします。



## 旅をするチョウ・アサギマダラの話

今年の秋も旅をするチョウ・アサギマダラが沖縄にやってきました。今年の南下傾向と、これまで本土のどの都道府県からやってきたのか検証します。

### どこでマーキングされたのか

沖縄県で再捕獲された個体のマーキング地(都道府県名)を表にまとめました。最も北は山形県、南で鹿児島県、マーク地マーキングが分かったのは30の府県でした。鹿児島県は93個体で奄美の喜界島が多く、長崎県84個体、続いて四国の高知県で81個体、長野県73個体、福島県52個体、愛知県53個体でした。福島県の大半は耶麻郡北塩原村桧原荒砂沢山グランデコススキー場からでした。

どうしたわけか九州で沖縄に近い熊本、宮崎でのマーキング個体の再捕獲記録が手元にありません。アサギマダラがいらないか、マーキング者もいないのかは不明です。隣の鹿児島県からの再捕獲が多いのに比べると極端です。アサギマダラの飛翔コースを考える上でのヒントなのかもしれません。

こうした各県からの飛来再捕獲の記録が多いのは、マーキング者数が多く、個体が多く集まる箇所が数多くあるのだと思われます。

沖縄で再捕獲した個体のマーキングした人数は160人余に及び、最も多かったのは伊藤雅男さんの48個体、長崎県佐世保市を中心としたマーキング地でした。続いて栗田昌裕さんで47個体、沖縄からかなり遠い福島県耶麻郡北塩原村桧原荒砂沢山グランデコススキー場のマークでした。その他、福村拓己さんの42個体、金田忍さんの16個体でした。

注目に値するのはマーキング地は福島県耶麻郡北塩原村桧原荒砂沢山

毎年のように沖縄で再捕獲されるマーキング者の常連以外にも、小学生や高齢者の方々も大勢います。再捕獲の情報を提供すると、喜びに満ちたお礼の便りももらうこともあります。マーキング調査を行っていて、嬉しい瞬間です。

再捕獲情報をメールに配信しても、マーキング者が分からず移動情報が配信されないこともしばしばです。グランデコススキー場で、栗田昌裕さんはここで22個体でした。沖縄までに到達する日数は平均で70日。距離にして1664km~2140km。南下しながら訪花し、エネルギーを補給しながらの移動はかなりの冒険だったと想像します。

沖縄県で再捕獲されたアサギマダラの都道府県別数(1988-2023)

府県名	個体数	府県名	個体数		
1 鹿児島県	九州	93	24 福岡県	九州	6
2 長崎県	九州	84	25 山形県	東北	6
3 高知県	四国	81	26 岐阜県	中部	4
4 長野県	中部	73	27 奈良県	近畿	4
5 山口県	中国	57	28 宮城県	東北	3
6 愛知県	四国	53	29 福井県	中部	3
7 福島県	東北	52	30 広島県	中国	1
8 和歌山県	近畿	41	31 宮崎県	九州	0
9 石川県	中部	38	32 熊本県	九州	0
10 群馬県	関東	33	33 香川県	中国	0
11 大分県	九州	25	34 鳥取県	中国	0
12 愛媛県	中国	22	35 島根県	中国	0
13 山梨県	関東	22	36 神奈川県	関東	0
14 京都府	近畿	19	37 東京都	関東	0
15 三重県	近畿	19	38 千葉県	関東	0
16 徳島県	中国	17	39 埼玉県	関東	0
17 大阪府	近畿	14	40 茨城県	関東	0
18 静岡県	中部	13	41 新潟県	中部	0
19 兵庫県	中国	12	42 秋田県	東北	0
20 栃木県	関東	12	43 岩手県	東北	0
21 富山県	中部	10	44 青森県	東北	0
22 岡山県	中国	9	45 北海道	北海道	0
23 滋賀県	近畿	7	46 香川県	四国	0



長野県から→糸満市 67日かけて1946kmの旅  
小学1年生の山川優明君が糸満市で再捕獲



屋久島から→中城村 7日かけて520kmの旅  
この個体は筆者の再捕獲

### 講座のご案内

海を渡るチョウ・アサギマダラの話  
日時/12月9日(土)9:30-11:00  
場所/名護城公園 学習室  
参加料金/1000円

名護城公園ニュースレター **なんぐすく** 2023年12月号

名護城公園管理事務所 〒905-0012 沖縄県名護市名護5511

TEL(0980)52-7434 FAX(0980)52-7477 <https://nangusukupark-osi.jp>

指定管理者 名護中央公園管理共同企業体[タピックグループ]

編集・発行:比嘉正一